

[連載] 清々しき人々 月尾 嘉男 第49回 (東京大学名誉教授・工学博士)

津田塾大学を創設した 女子高等教育の先駆者 津田 梅子



津田梅子 (1864-1929)



図1 女子留学生。(左から)永井上田吉、津田山川



図2 渡米直後の津田梅子



図3 ブリンマー大学

米欧へ大使節團を派遣

一七世紀末期の名譽革命により近代国家になったイギリス、一八世紀後半の革命によって近代国家になったフランス、さらに独立戦争によって近代国家になったアメリカなどは、急速に世界各地に進出し植民地争奪戦を開始します。日本周辺にも一八世紀末期のロシアの艦船の出没を最初として、各国の艦船が次々に登場しますが、その象徴がM・ペリーを隊長として四隻の艦船で一八五三年夏に浦賀に出現したアメリカの黒船来航でした。

その感奮に彼らの格差を痛感した徳川幕府は西欧社会の実態を調査するため、一八六〇年に遣米使節、六二年に遣欧使節、六四年には遣仏使節、六六年に遣露使節、六七年には再度、遣仏使節を派遣します。しかし翌年に明治維新となり、一旦、海外視察は中断しますが、一八七一年には明治政府の重鎮全権公家出身の岩倉具視を特命全権大使として、使節四名、随員一〇八名、留学生四三名の艦勢一〇七名にもなる大使節團を米欧に派遣します。

著名人々々々として、使節では初代総理大臣になる伊藤博文、維新三傑とされる大久保利通と木戸孝允(もう一人は西郷隆盛)、随員では西南戦争で自決する村田新八、釜石に日本最初の西洋高炉を建設する大島崑任、五箇名の御聖文を起草した一人の山科公正などがいました。留学生には外務大臣などを任ずる牧野伸顯、自由民権運動を指導する中江兆民など有名ですが、五名の女性もいました。その一人が今回紹介する弱冠六歳の津田梅子でした。

岩倉使節團に同行した女性

梅子は津田仙と初子夫妻の次女として一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。

岩倉使節團に同行した女性

梅子は津田仙と初子夫妻の次女として一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。

岩倉使節團に同行した女性

梅子は津田仙と初子夫妻の次女として一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。父は「新宿区南町」に暮らして一八六四年に江戸の誕生。

首都で勉学して帰国

一八七二年二月三日に行は四五〇トンの汽船「アメリア」で横浜を出发。翌年一月五日にサンフランシスコに着し、そこから北米大陸を鉄道で横断してシカゴ経由で二月九日に首都ワシントンに到着します。日本を出发してからは七〇日後のことでした。梅子は日本弁務館(現在の日本大使館)の書記で画家でもあった郊外ジョージタウンにある家庭で生活することになります(図2)。

津田梅子 伝記 世界の思想家から学ぶシリーズ 1-5巻 各巻A5判/152ページ 本体2,000円

野間児童文芸賞 受賞後初のYA作品 あしたの幸福

戦後史 戦争孤児たちの全3巻完結! 恋する日本史

図4 プリンマー大学時代



ジュエト・インスティテュートへ通学して初等教育を修了し、一八七七年からは私立の女子中学院であるアーチャ・インスティテュートへ進学する。その過程でキリスト教に興味を抱くようになり、八歳になった七三年にはフィラデルフィア近郊の特定の宗派に属しない独立教会で洗礼を受けています。

図5 (左から) 津田ペーコン、瓜生大山



二年から政府高官の夫を教育する桃女塾を自宅で開校していった女性です。そこで桃女塾で英語の教師として勤務するとともに、伊藤の娘の英語指導や妻の通訳としての仕事をしています。さらに八五年には学芸院から英語を独立させた華族女子大学の教師として勤務し、強みながら、上流階級の気風に馴染まなかったという、年頃になったために何回か、生涯未婚を決意するほどにも、いずれは日本女性の地位を向上させる学校を設立したいという意欲を醸成していきます。



図6 新五千円札 (2024年発行予定)

シンクロニシティ(偶然の一致)という言葉があります。梅子と女性のための大学を創設しようとしていた時期に日本には同様の機運が醸成されていきました。一八九〇年には前出の東京女子高等師範学校、一九〇一年には東京女医学校(東京女子医科大学)、一九〇一年には日本女子大学、日本女子大学、T・H・モリガン教授の指導により生物学を専攻します。翌年、さらに一九一三年には東北帝国

再度アメリカへ留学

六歳で外国へ旅立ち、一二年間も日本を留守にしていた梅子は日本に英語で手紙を送付していたほど日本の言葉も十分に習得してはいる。日本の風習にも不慣れであったため、適切な仕事に就職できずしてしまいました。しかし、一八八三年に、ある夜会で岩倉使節団の船内で行われた歌子とい藤博文と再会し、下田歌子という女性を紹介され、下田歌子は宮中の女官でしたが、八

二年から政府高官の夫を教育する桃女塾を自宅で開校していった女性です。そこで桃女塾で英語の教師として勤務するとともに、伊藤の娘の英語指導や妻の通訳としての仕事をしています。さらに八五年には学芸院から英語を独立させた華族女子大学の教師として勤務し、強みながら、上流階級の気風に馴染まなかったという、年頃になったために何回か、生涯未婚を決意するほどにも、いずれは日本女性の地位を向上させる学校を設立したいという意欲を醸成していきます。

プリンマー大学は在学することになりますが、日本女性の地位向上のための教育という長年の目的を達成していきます。そのように滞在一年延期した留学期間の友人A・ペーコンに刺激され、再度の留学を目指す。華族学校の西村茂樹校長から許可を取得します。この西村も人物であり、一八八八年に佐野藩邸田家に誕生して藩校で勉強し、一八八九年に東京女子高等師範学校に入学し、九四年には東京女子高等師範学校「お茶の水女子大学」教授を併任します。

念願の女子大学を創設

これは優秀であつたため、プリンマー大学は在学することになりますが、日本女性の地位向上のための教育という長年の目的を達成していきます。そのように滞在一年延期した留学期間の友人A・ペーコンに刺激され、再度の留学を目指す。華族学校の西村茂樹校長から許可を取得します。この西村も人物であり、一八八八年に佐野藩邸田家に誕生して藩校で勉強し、一八八九年に東京女子高等師範学校に入学し、九四年には東京女子高等師範学校「お茶の水女子大学」教授を併任します。

大理解得大学の女性の大学を認可するという具合です。プリンマー大学に在学することになりますが、日本女性の地位向上のための教育という長年の目的を達成していきます。そのように滞在一年延期した留学期間の友人A・ペーコンに刺激され、再度の留学を目指す。華族学校の西村茂樹校長から許可を取得します。この西村も人物であり、一八八八年に佐野藩邸田家に誕生して藩校で勉強し、一八八九年に東京女子高等師範学校に入学し、九四年には東京女子高等師範学校「お茶の水女子大学」教授を併任します。

それらの心労もあり梅子の体調が次第に不調になり、創立に約半年に経過した一九〇一年に、塾長のまま鎌倉に隠居して病弱生活をします。しかし残念ながら六四歳になった二九年に生涯自身の人生を終了しました。生れ以前の二三年の間東大震災で麹町区五番町の校舎は全壊し、偶然にも前年に土地を取得していた北多摩郡小平村(小平市)に移設し、梅子の死後、名を「津田英学塾」とし、梅子の墓所も学内に設けられました。

明治時代の女子の学校では行儀作法が重視される校風が大抵でしたが、梅子のアメリカでの経験と反映して学問の習得が目ざされ、最初に入学していた一〇名のうち八名しか卒業していません。厳格な教育を実施し、卒業するためには相当の努力が要求されました。この教育方針を徹底するために、運営資金などを外部に依存しないことが重視され、教師の確保や建物の建設費用の調達などの苦労は大変でした。

から北里榮三郎、五千円札は樋口一葉から津田梅子に変更されることになったのです。明治時代の登壇には神功皇后の肖像が使用されていますが、それ以後は二〇〇四年に発行された五千円札の樋口一葉に替わって、梅子として三人目の栄誉で、生誕一六〇年の記念すべき年の発行になります。(四六)



津田英学塾津田梅子墓室所蔵 * 図3、6を除く画像はすべて津田英学塾津田梅子墓室所蔵

昨年四月に津田梅子によって吉報が発表されました。二〇二〇年度に紙幣のデザインが変更され、一万円札は福沢諭吉が変更され、千円札は野口英世が

つよお よしお 一九四二年名古屋生まれ。一九六五年名古屋大学卒業。東京工業大学、名古屋大学教授。東京名大教授を経て東京大学省総務課長、二〇〇二、〇三年コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全学連代表でカンとクロクソラント、リスキーをしながら、知床半島登山、羊蹄山登山、釧路湖原原野、白馬登山、宮川流域、瀬戸内海遊覧などを主宰し、地域の有志とともに環境保護や地景画に取り組み、主要著書に『日本百年の転換展覧(講談社)』、『縮小文明の展望(東京大学出版会)』、『地球共生(講談社)』、『地球の救い、水の話(遊遊社)』、『二〇〇一年先を読む(モラルジーン研究所)』、『先住民族の物語(遊遊社)』、『誰も知らない本が怖いビッグデータとサイバー・日本のカラクリ(アスコム)』、『日本が世界地図から消滅しないための戦略(致知出版)』、『幸福楽園社会への軌進(モラルジーン研究所)』、『探検日本 地域振興の展望(東京大学出版会)』など。最新刊は『清々しき人々』(遊遊社)。

月刊新聞「MORGEN」購読のご案内
MORGENは、先生と生徒が共有する、読書を柱とした、人間の生き方を考える新聞です。生徒会担当教諭、図書館担当教諭を通じて生徒に配布しています。読書や社会情報を通し、子どもたちの視野を広げ、自ら社会の一員である自覚と、ものごとを客観的に見、聞き、考える目と心を育てることを目的としています。
購読費(年間購読)
300円×11回(年間11回発行) → 3,300円(送料込)
★購読費を限費で支払っていただいた学校さんもあります。
★教育機関には1部料金で複数の送付ができます。お気軽にご相談下さい。
★年度途中でのお申込みも可能です。

樹木を観察しよう! 樹木博士入門
小嶋和男・若藤謙川・阪岡隆博・宮本卓・森田 昌
BS 256p. 本体2,900円 ISBN978-4-88137-198-5
●樹木は面白いけど観察ポイントがつかみにくい?…本書は読者の目線で観察します。
●事典と図鑑、ふたつの機能が融合して初心者にもわかりやすい指南書を実現しました。
●1章は写真を多用したわかりやすい用語集。
●2章は似たもの同士などグループ分けで実践的に使える樹木図鑑です。